



平成 24 年 9 月 21 日 第 2 巻(第 24 号)

発行： 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害対策本部 TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

## ●●●目次

1. 災害対策本部からのお知らせ
2. 災害対策本部会議 議事録
3. 現地支援活動報告
4. 現地感想文
5. 事務所感想文



## 災害対策本部からのお知らせ●●●

上毛カルタ：㊦さつ(草津)よいとこ 薬の温泉

(群馬県吾妻郡草津町)

### 【1. 協力員募集】

#### ●●●現地

現地の業務状況を鑑み、当面は制限なく受入を行います。

中 3 日以上・なるべく平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害対策本部までお気軽にご相談ください。

\*\*\*10 月はまだほとんど応募がありません。ご都合の付く方、ご協力をお待ちしております！

#### ●●●事務所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが 1~2 ヶ月に 1 回でも構いません。ご協力をお願い致します。

### 【2. 災害対策本部会議】

9 月 7 日(金)に実施しました。下記(3 ページ後)に議事録を掲載させていただきます。

次回は 10 月 6 日(土)18:00~ 協会事務所にて開催します。

### 【3.書籍販売】

『東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン1』の販売を行っています。

発災から昨年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録をまとめました。ぜひご覧になってください。尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。



●●●注文用紙はホームページからダウンロードできます。

[http://www.jaswhs.or.jp/date/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=45](http://www.jaswhs.or.jp/date/publishing_detail.php?@DB_ID@=45)

### 【4.facebook】



facebookでも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

●●●URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公益財団法人日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

### 【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんがVTRにまとめて下さいました。YouTubeにアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。



●●●URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

## 【6.現地・事務所職員募集】

災害対策本部では現地・事務所職員を随時募集しています。  
災害支援に関心のある方からのご応募をお待ちしております。  
または周りでご興味のある方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介ください。



草津・白根山（群馬県吾妻郡草津町）

### ●●●①現地常駐者(短期契約職員)

- ・就業場所：宮城県石巻市大街道北
- ・就業時間：9～17時  
※業務の関係で残業あり。
- ・休日：土曜・日曜・祝日・年末年始
- ・基本給 250,000 円/月
- ・通勤費実費支給
- ・社会保険加入
- ・医療ソーシャルワーカー業務経験必須
- ・長期の方優遇。月単位でも応相談。

### ●●●②災害対策本部事務所担当(パート職員)

- ・就業場所：協会事務局内
- ・就業時間：週3日程度 10～17時  
※業務の関係で残業あり。  
※頻度・時間は応相談。
- ・休日：土曜・日曜・祝日・年末年始
- ・時給 900 円～ 通勤費は実費支給
- ・経験不問。医療ソーシャルワーカー業務経験者優遇

ご応募の方は下記宛に履歴書をお送りください。面接にて決定させていただきます。  
または災害対策本部までお気軽にお問い合わせください。

### ●●●お問い合わせ

住所：〒162-0065 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル

電話：03-5366-1057

担当：笹岡・中川

## ●●●第7回 災害対策本部会議 議事録

**実施日** 2012年9月7日(金)19:00～

**出席** 佐原・笹岡・武山・久保木・山田・梅崎・袴谷・篠原・富永・東（敬称略・順不同）

**欠席** 三輪・飯島・坪田

### 1. 災害対策本部 事業全体について

#### (1)財政面

- 収支報告 一部、協力員の交通費について日生の助成金を使用。
- 自動車賃貸にあたっての覚書を正式に覚書を締結。
- 「赤い羽根 災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」  
申請時に必要な活動内容について、現地協力員にてチェックを行う。締め切りは9月末。

#### (2)人事

##### ●職員

【現地】 8月より、責任者が久保木美由紀へ。

依光則子

中辻康博 平成24年10月までの延長を相談中

富永千晶 平成25年1月～を予定。

中辻が退職、富永が入職する間(11月、12月)の現地サポート体制が課題。

→ 現地活動リピーターへメールで参加を呼び掛ける。

<宿舎に関して>

- ・依光 10月1日～中里サポートセンターD棟の一部屋を使用予定。復興協議会側にて調整中。
- ・現地職員の負担軽減のため、乾燥機の購入が必要？現地にて検討。

##### ●協力員

【現地】

第2期調査終了以降(平成24年10月以降)も継続した訪問などは必要。また仮設への支援の継続にあたっては人手は必要であるため、無制限での受け入れは継続していく。

【事務所】 月～金 10時～17時

- ・8月新規登録 1名あり
- ・パート職員の応募は継続して行う。

### (3)現地業務について

#### ●第2期調査終了見込み時期：10月末

本来、9月末で終わるものだったが、10月まで期間を延ばすことになった。ソーシャルワーカーの介入ケースは想定よりも少なかった。第2期はこころのケアや、高齢サポートの人数が増えたことも影響している可能性あり。

#### ●第3期調査スケジュール：行わない見通し

健康・生活復興支援協議会にて「ネクストステップ準備室」を立ち上げ、来年度どうしていくかについて、9月中旬に第1回話し合いを行う予定。本アセスメント・フォロー活動を中心にやってきていたが、外部機関から地元への支援の移行をどう考えていくか、地域の中で考えていけるようにしていくにはどうしていくのがよいかを検討していく予定。本協会からは久保木が参加。

仮設では、アルコールの問題が出てきている。現在、保健師へつないでいるが、今後、一緒に関わっていいのではないかと。地域主導でどのようにやっていくかも大切にしながら、関わり方を考えていけるとよい。

#### 現地医療機関のソーシャルワーカーのサポートとして

- 開成診療所で行われる事例検討会(10月頃～を予定)への協力を予定
- 協会の事例検討会をサポートセンターにて開催。現地ソーシャルワーカーにも開かれた会議とし、協会からスーパーバイザーを派遣する。
- 来年度、常勤を置ける形になるのかは未定だが、協会として支援は継続していく。

### (4)チーム医療推進協議会へ提出する報告書について

医師会からの要望で「東日本大震災における被災者健康支援の問題点抽出」を作成中。

### (5)日本ソーシャルワーカー学会

日本ソーシャルワーカー学会から、石巻の調査結果を基にした原稿執筆依頼有。ソーシャルワーカーが関わったものだけに限定したデータ提供の依頼について先進国モデル構想会議へ依頼を行っている。研究は必ず、先進国モデル構想会議との共同研究として出すことになる。協会員が学会発表を行うときには、本部に一声をかけてもらうことを徹底する。

### (6)災害支援ソーシャルワーク報告会

#### ●神奈川県社会医療事業協会

今年度2回目の災害支援ソーシャルワーク報告会(10月13日(土)13:30～)開催

「災害支援報告会 Part2 『「LIGHT UP NIPPON(上映会)」～現地活動報告会から、支援のバトン～  
→HP アップ済み

#### ●今後の開催地

会長会にて、県の研修のときに講師依頼をいただけるように依頼する。

※・開催県、旅費の都合がつけば、武山氏が出張し報告が可能

・開催県に費用をできるだけ負担していただく。

・開催県が行っている研修会等によってこちらが報告を行う形が良い。

## 2. 事務所支援活動

- 健康・生活復興支援協議会の活動がイメージできるよう、ホームページに協議会の活動内容に対する動画をリンクする。
- sugarsync を利用した情報共有について
  - 健康・生活復興協議会とのフォルダの共有は必要なし。
- 現地、宿舎、事務所にて sugarsync を利用し、連絡フォーマットや活動カレンダー、日報などの共有し、事務作業の軽減を図る。
- 広報
  - ①書籍販売;東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトン 1』
    - ※(9/5 現在)在庫 2209 冊 (販売 486 冊・寄贈 305 冊)
    - ※現地石巻での販売・寄贈分(8/22 現在)含む
    - 多くの人の目に触れ、販売数を伸ばすために、Amazon にアップしてもらう方法を篠原氏にて調べ、登録を行う。
  - ②災害対策本部のメールアドレスが分かりにくいという指摘があったため、HP の 3 か所(『お問い合わせ』『活動に参加したいと思ったら』『現地支援活動協力』)に、対策本部の TEL、FAX、メールアドレスをアップした
  - ③WAM ネットが「被災地支援を行っている団体の情報登録」を募集
    - 飯島にて団体の支援登録を行う
- 災害支援ニュースについて
  - 8 月にてニュース作成担当者変更有

## 3. 現地支援活動

- 久保木より月間報告

## 4. 次回予定(10月6日(土)18時～)

- 11月の予定は次回決定。



草津白根山・弓池 (群馬県吾妻郡草津町)

## ●●●現地支援活動報告

活動期間:2012年8月23日~8月27日

岡村 翠 (高知県)

活動させてもらった時期が、震災後1年半以上経過していることもあり、石巻市内到着時には目で見える震災被害が確認できる状況ではなくなっていることに驚きました。また、事務所内、周辺での活動だけでも、その辺りの見えにくさがありました。3日目に活動を行った地区では、被災後派生してきた生活問題を被災者から伺うことが出来、大変貴重な経験をさせてもらいました。

やはり、中心地周辺や家屋損壊など活動しやすく、介入しやすいケースへはボランティアなどによる社会資源でサービスが行き届いているように思いました。しかし、中心地から少し離れた地域や家屋損壊ではない生活問題、震災前からの既存の疾患や多問題家族へのアプローチは、地域の専門職へのフォローも視野にいれ、介入・支援をしていく必要性を感じました。

活動期間:2012年8月24日~8月26日

山本 三千子 (高知県 厚生年金高知リハビリテーション病院)

石巻に到着し、高知と変わらない暑い陽射しに驚きました。石巻仮設サロン支援連絡会会議、石巻医療圏健康・生活復興協議会では、被災者が今抱えている問題、それに合わせての支援活動や専門性を出し合って、住民の力を引き出す工夫や働きかけを知ることができ、こんなに多くの元気な支援の輪が広がっていることに感動し、明日からの支援活動にパワーをいただきました。

3日間の活動でしたが、ナビを頼りに迷いながらも在宅被災者のお宅に訪問し、被災した家屋を目のあたりにし、直接お話を伺ったりすることで震災のもたらした生活問題の根深さや日常生活への影響の大きさ、生活再建の格差をみせつけられました。しかし、それとともに被災者の取り戻す力、前に進む力を知ることができました。

継続支援ができない状況での関わりであり、その後の経過や結果をおえないもどかしさはありませんでしたが、1人ひとりに「寄り添い・支える」支援のバトンを繋げていくことで、1年半たった今、大きな喪失から立ち直ろうと前に進みだしている方々のお話を伺うことができました。協議会が目指す「住み慣れた地で、自分らしく生きる」、そんな当たり前を取り戻し、更に確かなものとしていくためにも長期的な継続支援は必要だと思います。

私にとっては、人として、ソーシャルワーカーとして多くの貴重な体験と気づきをさせていただき、今後に生かしていきたいと思えます。出会った石巻の方々、お世話になった現地担当者の久保木さん・中辻さん・依光さん、本当にありがとうございました。

活動期間:2012年8月25日~8月28日

齊藤 有香 (神奈川県 川崎市立多摩病院)

4日間の活動内容は、震災後、在宅生活を送る方の健康・生活不安について訪問調査された上で、ソーシャルワーカーに引き継がれたケースのアセスメントを、訪問や電話を通して行うことであった。

現地支援者の、住民に真摯に対応する姿と、住民の方が不安を語る姿に、改めて支援の意義を実感した。そのような中、現地職員の労力をかけてなお、数日間のみ協力員が活動する意味とは何かと自問し、活動を通して2つの役割を実感した。

一つは、当然のことではあるが、ソーシャルワーカーとしてのアセスメントの専門性を活用することである。同行の協力員が、自宅訪問面接から住民の困りと強み、希望を吸い上げ、評価、プラン立てするのを拝見し、現地制度に不慣れなことを超えて、ソーシャルワークの専門性を感じた。また、現地で働く、様々な職種で構成されたアセスメント班の方にとっても、ソーシャルワーカーの評価は医療の緊急性やリスクを把握することに貢献すると思う。

もう一つは、ソーシャルワーカーの「聞く力」を発揮することである。震災は、住宅の改修やたくさんの人や物との別れ、喪失を爪痕として残し、住民が語る言葉には日々の景色の中にその喪失が含まれていた。多くの子ども達が犠牲になった地区の住民に訪問を行うと、「子ども達の声が聞こえなくなった」と語られた。「誰に怒りをぶつければいいのか」「仕事を失って、どうやって生きていけばいいのか」という住民の日々の感情を受け止め、その方の尊厳に寄り添うことが、今できる支援で、そこにソーシャルワーカーは貢献できると感じた。

今後も個人の問題を社会が向き合えるように、そのための活動を続ける現地支援者たちを、どのように継続してお手伝いができるか考え、発信していくこと、その今後の継続性にこの短期派遣された意味や価値があると考えた。

活動期間:2012年9月1日~9月5日

目黒 崇英 (愛知県 小林記念病院)

震災後3度目の東北入り。今回初めて組織の中のソーシャルワーカーとして石巻で活動した。震災から1年半経った被災地は、瓦礫も撤去され、押し流された家屋の跡地は夏草が茂るのどかな風景へと変わり、住民も日常の生活を取り戻しているように見えた。事前に活動情報は確認したものの、ここで一体ソーシャルワーカーとして何ができるのか具体的にイメージできずにいた。しかし、支援員の方に話を聞き、他のスタッフと接しながら活動に関わる中で、復興協議会がどのような役割を果たし、在宅被災者に対してどうアプローチし支援しているのか体験を通して実感できた。被災者の受けた被害や痛手、置かれた状況は全て違い、関わり方もそれに依って変えていかなければならない。それをこの被災地でまがりなりにも実現しようとしている現地スタッフには本当に頭が下がった。また自宅訪問など病院にいとあまり機会がないが、今回積極的に行うことで、今までとは別のソーシャルワーク観を持てた気がする。

たった5日間であったが、現地支援員の皆さんには様々な所に案内してもらい、活動を幅広く経験させて頂いた。寝食を共にする合宿のような生活も久々に楽しいものであった。石巻の穏やかな海や、訪問宅で出会った被災者の顔や声がまだはっきりと記憶に残っている。



## ●●●現地感想文

### ●●●9/12 谷口桃代(神奈川県 横浜市立大学病院)

震災で生活だけではなく、生き方も変わられた方の話は印象的でした。

その方の生き方を尊重しながら安全に暮らせる生活とは何かを考えさせられたと共に、生き方に寄り添える支援ができるのはソーシャルワーカーだからこそだと実感しました。

### ●●●9/12 石黒都記子(大阪府 東大阪病院)

震災が起こる前から抱えていらっしゃる生活課題が、震災を機にバランスを崩したり、コミュニティが崩壊したことによって、ますます目に見えずに孤立してしまうケースが多い印象を受けました。

協会の活動によって丁寧に掘り起こされた部分を、いかに石巻に住む人々がバトンを引き継ぎ、再構築していけるかが今後の課題だと感じます。震災からの期間に応じてこの協会が支援されていることに素晴らしさを感じた3日間でした。

### ●●●9/12 秋本みゆき(大阪府 千里中央病院)

以前に石巻に来た時(2011年5月)との支援内容の違いに驚きました。時が経ち、必要な支援も色を変えていくことを実感できました。

今回についてはソーシャルワーカーの視点でアセスメントし、フォローが必要か、どう繋げていくかということを中心に考えさせられました。震災前からある問題が、震災によって浮き彫りになり、ただそれを私たちが解決するわけではなく、現地での問題として今後どうしていくのかという視野を持たなければならない。そのことが、地域での本当の復興に繋がれるのだと実感しました。

協議会のアセスメントやフォローされている皆さんの活動には、熱い思いも感じました。本当に貴重な経験ができました。ありがとうございました。

### ●●●9/13 中辻 康博(現地担当)

朝晩は秋の気配を感じるものの、日中の暑さはまだまだ残っている石巻です。

本日は会議資料作成・整理など事務所内での作業を中心に行いました

協議会では2期調査後を見据えて、様々な会議が増えてきている状況です。

●●●9/14 久保木 美由紀(現地担当)

本日の気温 31 度と暑い日が続いています。

ネクスト・ストップ会議で住民の声から問題点を出していくと、孤立懸念、コミュニケーション不足とコミュニティを失ったことによる弊害が大きいということが分かりました。地域が壊れてしまうことで、こんなに多くの問題が出てくることを改めて認識しました。

この部分は丁寧に見ていき、どんな方法、対策がとれるか考えて行かなければならないと思います。

●●●9/15 依光 則子(現地担当)

本日からご参加の協力員は、お二人ともリピーター。

ご参加時期はバラバラで初顔あわせ、中里サポートセンターも初めてながら、最近の状況変化をお伝えすると即、同僚のように業務開始。お一人は先日カウンセラーとしても参加されましたが、その時のチームが今回も偶然参加中。早速情報共有となり、ソーシャルワーカーも入り混じって交流へ。

即席のチームが日々形成され、今日もバトンが繋がれていきます。

●●●事務所感想文

本部の業務も色々あり、三輪さん一人で奮闘されています。本部ボランティアさんが増える事を期待します。

9/14 群馬県 独立行政法人国立病院機構西群馬病院 尾方 仁

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース

平成 24 年 9 月 21 日 第 2 卷 24 号

作成 群馬県医療ソーシャルワーカー協会